



ペルセウス座

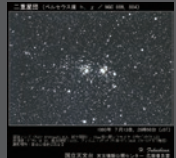
夏の「ペルセウス座流星群」として有名な星座です。秋の星座の仲間に入っていますが、すぐとなりは冬の星座です。晩秋を飾る星座ともいえるペルセウス座は、星雲や星団、変光星など、見どころがたくさんあります。

ペルセウス座にはこんな物語があります。(9月号から続く秋の星座の物語です。)母カシオペヤが口を滑らせてしまったことで、お化けクジラの生けにえとなった娘のアンドロメダ。それを救ったのがペルセウスです。この化け物を見事撃退し、めでたくアンドロメダ姫と結婚したという神話が残っています。

ペルセウスは手にメドゥーサの首を持った姿で描かれます。メドゥーサは世界のはてに住むゴルゴン三姉妹の一人。髪の毛が生きたヘビという不気味な女性で、その顔を見たものは石になってしまうと言われています。ポリュデクテス王にメドゥーサの首を持って来るよう命じられたペルセウスは、数々の危機を乗り越え、鏡代わりの盾にメドゥーサを映して、後ろ向きに剣で倒したと言われています。アンドロメダを助けるときにもこのメドゥーサの首を使ったと伝えられています。この首をお化けクジラに向けて、石にして海に沈めてしまったということです。

h_γ 二重星団 (エイチカイにじゅうせいだん)

ペルセウスが振り上げた剣の柄の位置にある 2 つの散開星団です。「すばる」など、数々の散開星団は、それぞれ単独でも美しいのですが、この二重星団はその名の通り、1° 以内の範囲に明るい星団が 2 つもあります。このような並びは他にはありません。2 つの星団は宇宙空間での距離が近く、含まれる星の数も同じくらいです。このエリアは星の材料となる物質が多いので、誕生したばかりの青く高温の星がたくさんあります。(星の一生で言うと「若い」とは、数百万歳のことを言います。人間の一生に比べたらとても長い時間ですね。)



<参考> ・「藤井旭の星座と星座神話(秋)」藤井旭(著)：誠文堂新光社

今月の見どころ星どころ

木星

今月3日に木星は衝となり、見ごろを迎えます。「衝(しょう)」とは、位置を表す言葉です。ちょうど地球を挟んで太陽の反対側となり、地球の真夜中側なので観察の好期というわけです。

今年の木星の位置

木星は現在おひつじ座に位置します。位置は表紙の星図を参考にしてください。

木星の観察

望遠鏡でぜひ見ていただきたい天体です。望遠鏡で見ると、縞模様をはっきりと見ることができます。また、低倍率の望遠鏡や双眼鏡でもガリレオ衛星が見えます。それらをさらに楽しむために、継続した観察もおすすめです。



撮影：浜松市天文台事業協力者の会 西岡 毅

○表面の模様を見る

自転速度が速いため、長時間観察すると表面の模様が移動します。特に大赤斑(目玉のような模様)の移動が分かりやすいでしょう。

○ガリレオ衛星を見る

望遠鏡で木星を見ると小さな点が見えます。ガリレオ衛星です(イオ、エウロパ、ガニメデ、カリスト)。公転速度が速いため、衛星の位置が時間ごと、日ごとに違って見えます。数時間の観察でも移動が確認できます。(ちなみにイオは木星のまわりを 1.769 日で公転します。)

木星プロフィール

太陽系 第 5 惑星	
構造	ガスを主成分とするガス惑星
直径	地球の 11 倍
質量	地球の 318 倍
公転周期	12 年
自転周期	10 時間
衛星	95 個 (2023.5.24 現在)

文・浜松市天文台 喜澤 俊輔



星空クイズ

星雲や星団、銀河を表すときに番号とともに「M」が付いていることがあります。この星空案内でも何度か登場していますよね。有名なのは、M31 アンドロメダ銀河や M45 プレアデス星団(すばる)です。では、この「M」は、何に由来するものなのでしょうか。

- A. フランスの彗星発見者、「シャルル・メシエ」
- B. 水星の由来、伝令神「マーキュリー」
- C. 星座が誕生したと言われる「メソポタミア」地方

答えは中面へ

星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

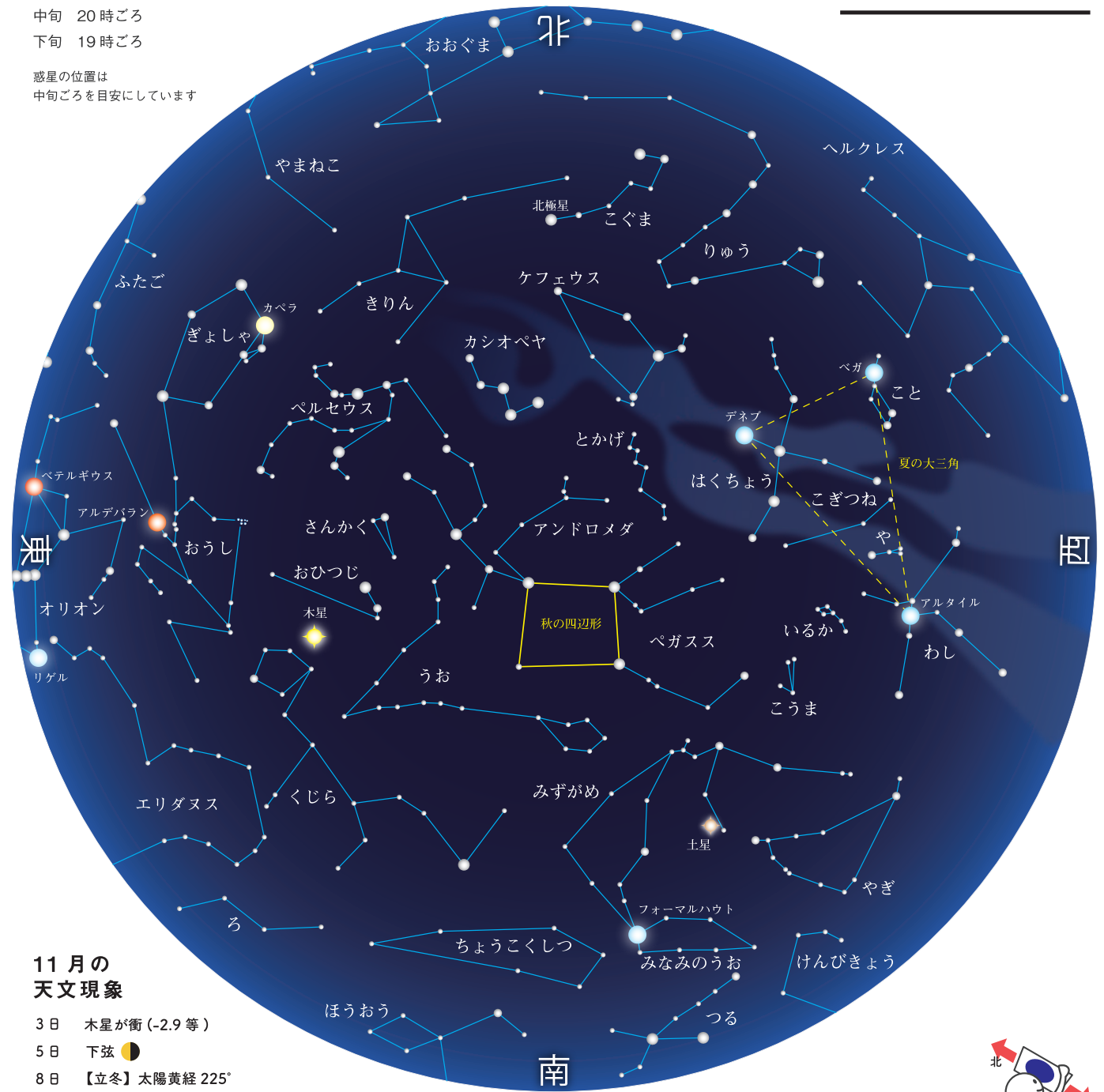
2023年11月

上旬 21時ごろ

中旬 20時ごろ

下旬 19時ごろ

惑星の位置は
中旬ごろを目安にしています



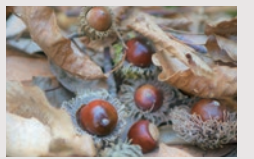
11月の天文現象

- 3日 木星が衝(-2.9等)
- 5日 下弦
- 8日 【立冬】太陽黄経 225°
- 13日 新月
- 14日 天王星が衝(+5.7等)
- 20日 上弦
- 22日 【小雪】太陽黄経 240°
- 27日 満月



上の星図は、空にかざして実際の方角と合わせてご覧ください。

秋も深まり、木の実がたくさん落ちていますね。まん丸どんぐりのクヌギが大好きです。収集癖のある私は、木の実を拾い出したら止まらなくなります。星は、遥か遠く、手に入れることができません。それも魅力的です。今月は木星が衝を迎えて見ごろです。





浜松市天文台

イベント情報

催しはすべて事前予約制となります。浜松市天文台ウェブサイトよりお申し込みください。※「街なか天体観覧会」は浜松科学館で受付

ウェブサイトはこちら




11/4・11・18・25 星空観望会 NG

土 宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望。星座の配置や結び方などを解説します。

時間 18:30～20:30
会場 天文台屋上階
申し込み 開催日3日前の水曜13時から受付(30分ごと先着20組)




11/5 星と景色の写真講座 OK

日

三脚と一眼レフカメラで、星の写った風景写真を撮影するための入門講座です。


時間 18:30～21:00
会場 2F 講座室
申し込み 11/1(水)13時から受付(先着6組)



11/4 天文講座「惑星の動き」 OK

土 惑星の一般的な動きを知るための講座です。計算をしないで考える初級講座になります。

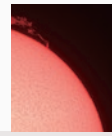
時間 15:00～16:30
会場 2F 講座室
申し込み 10/25(水)13時から受付(先着15組)



11/5 太陽・昼間の星 観望会 NG

日 黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や、昼間に見える天体を観望します。

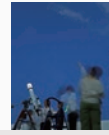
時間 14:00～16:00
会場 天文台屋上
申し込み 11/1(水)13時から受付(30分ごと先着20組)



11/12 ソムリエ観望会(土星・木星) OK

日 星空案内のガイドツアー付き観望会です。新人の星のソムリエ®がご案内します。


時間 18:30～20:30
会場 天文台屋上
申し込み 11/8(水)13時から受付(1時間ごと先着9組)



11/18 天文ミニ講座 OK

土 星座と当夜の見どころについて、星のソムリエがやさしくお話いたします。


時間 17:30～18:20
会場 2F 講座室
申し込み 11/15(水)13時から受付(先着10組)



11/19 望遠鏡講座(一般) OK

日 望遠鏡に興味がある、購入や活用法を知りたい方のための講座と実技です。

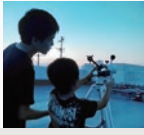
時間 18:00～20:00
会場 2F 講座室、天文台屋上
申し込み 11/15(水)13時から受付(先着5組)



11/25 めざせ!望遠鏡マスター OK

土 望遠鏡を使って天体を見てみよう!小中学生対象の簡単な取り扱い説明と実習を行います。


時間 17:30～18:30
会場 2F 講座室
申し込み 11/22(水)13時から受付(先着6人)



12/14 ふたご座流星群観望会 NG

木 話題の流星群をみんなで楽しもう。暖かい服装でお越しください。


時間 19:00～23:00
会場 天文台屋上
申し込み 11/29(水)13時から受付(先着30組)



11/26 街なか天体観覧会～望遠鏡で太陽を見よう～ NG

日 望遠鏡を使って太陽を観察しよう。浜松科学館内で解説も行います。

共催：浜松科学館
時間 ①13:30～②14:00～
会場 浜松科学館、アクトシティ「太陽の広場」
申し込み 10/29～11/12(各回30名程度)

お申込はこちら 


裏面のクイズの答え：A 「街なか天体観覧会」のお申し込みは浜松科学館ウェブサイトにて受け付けます ▲

星空を楽しむ

秋の星雲、星団といえば、やっぱりアンドロメダ銀河です。約250万光年離れていますが、お隣の銀河です。視直径は満月の約6倍にもなりますので、明かりの少ない場所では肉眼でその存在を確認することができます。

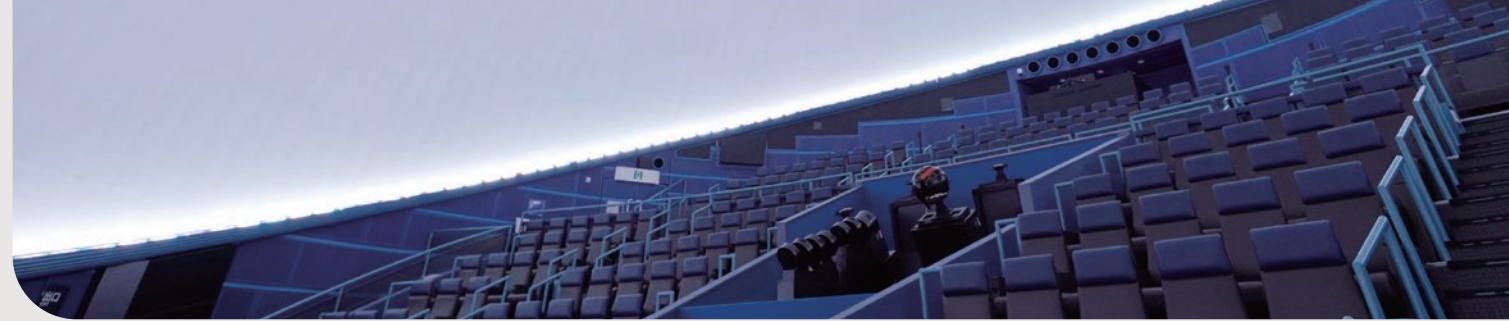
アンドロメダ銀河は約1兆個もの恒星からなる渦巻銀河です。きっと、それら恒星の中にはそのまわりを惑星が公転し、地球のような生命が宿る惑星もあることでしょう。

しかし、今見ているアンドロメダ銀河は250万年前的の様子です。250万年前に発したアンドロメダ銀河の生命からのメッセージがあったとして(メッセージが光の速さとして)、250万年後の今、アンドロメダ銀河の生命は変わらず生きていますでしょうか。また、地球の人類はそのメッセージに答えたとして、アンドロメダ銀河に伝わった250万年後、まだ地球の人類は存在しているでしょうか。250万年という時間を変わず人類が存在し続けていくことは難しいでしょうか。秋の夜長に星空を見上げて、少しそのようなことを考えてみるのもいかがでしょうか。



浜松市天文台事業協力者の会 中嶋 敏勝

①日付 ②月の出の時刻 ③月の入りの時刻 ④月齢

浜松科学館

プラネタリウム番組情報

解説員が星空をライブ解説する「生解説プラネタリウム」と臨場感ある「大型映像」をお楽しみいただけます。

blog



生解説プラネタリウム

北極星のを見つけ方 - ポラリス -

2023年9月19日・11月30日
14:30～15:25
土日祝は11:40～12:35も放映

北極星のを見つけ方
ポラリス

方角を教えてくれる星、「北極星」を探してみませんか?

～11/30 14:30～15:25
土日祝は11:40～12:35も放映

キッズプラネタリウム

しましま!もくせい

2023年10月3日～11月30日
10:30～11:10
土日祝のみ放映

しましま!もくせい

今夜晴れたら、明るい「木星」をみてみよう!どこに見えているかな?宇宙旅行にも出発するよ!

～11/30 土日祝のみ放映
10:30～11:10

大型映像

銀河鉄道の夜

15:50～16:40

海竜王 モササウルス

制作・配給：D&Dピクチャーズ
制作協力：NHKエンタープライズ/映像提供：NHK
土日祝のみ上映 13:15～13:55

夜の科学館 特別放映

熟睡プラ寝たリウム

高校生以上限定

11/10 18:50～19:45

星空の中心

紅葉が見られる季節になりました。冬が近づくと、落葉樹は葉を落とします。これは、夏の間に蓄えた水分が乾燥によって葉から蒸散してしまうのを防ぐためです。このように、植物には1年を通して姿を変えるものがありますが、空には1年中ほぼ同じ位置に留まり、いつでも見られる星があります。

それは「北極星」です。北の空を一晩中眺めていると、この北極星を中心に周囲の星々が反時計回りに回っているように見えます。なぜかという、北極星は地球の地軸の延長線上にあるからです。地球は西から東へ向かって自転しています。そのため、南の空を見ると星は反対に東から西へ向かって動いて見え、北の空を見ると北極星を中心に反時計回りに回って見えるのです。また北極星は、こぐま座の長いしっぽの先で輝く2等星です。ギリシャ神話によると、こぐまは全知全能の神ゼウスにしっぽをつかまれ、放り上げられて星座になりました。その時にしっぽが長く伸びてしまったのだそう。なんだか気の毒ですね。

ところで、北極星は浜松からはどれくらいの高さに見えるのでしょうか?意外と答えは簡単です。浜松の緯度は34.7度。北極

column

星の高さは、同じく34.7度です。つまり、北極星の高度は観測地点の緯度と同じなのです(南半球では北極星は見えません)。北極点で見れば90度、赤道上で見れば0度の高さに見えます。北極圏(北緯66度33分以上)では、11月になると「極夜」の時期になります。極夜とは1日を通して太陽が昇らず、夜が続く現象です。北極点では半年もの間、天頂に北極星が輝き、その周りを星々がメリーゴーランドのように回って見える光景が続くのです。

みなさんも今夜、「星空の中心」を探してみませんか?

<参考>
国立科学博物館 宇宙の質問箱
https://www.kahaku.go.jp/exhibitions/vm/resource/tenmon/space/seiza/seiza02.html



こぐま座。しっぽの先にある2等星が北極星(ポラリス)